

3. 2017年度 活動報告

阿部 英之助・依田 理恵子

(1) センターの体制

2016年度に引き続き、センター長、専任教員1名、事務補佐員1名で、センターの運営を行った。また、高大接続に関する他大学の研究者として佐々木隆生氏（北海道大学名誉教授、元北星学園大学経済学部教授）、光本滋氏（北海道大学大学院教育学院准教授）の2名を引き続き研究員に委嘱した。

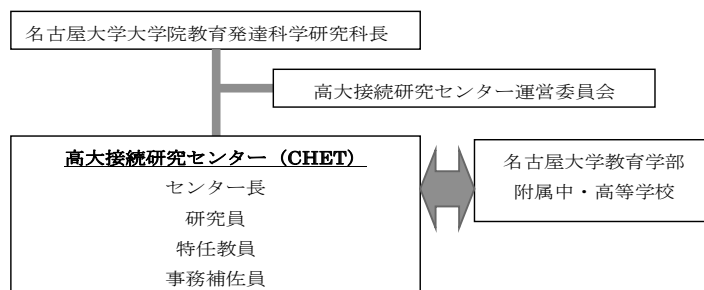
高大接続研究センターの運営に関する事項は、教育発達科学研究科および教育学部附属中・高等学校の教員によって構成された「高大接続研究センター運営委員」が開催する「高大接続研究センター運営委員会」において審議される。2017年度は5月17日に第一回運営委員会を開催し、2016年度の事業報告、2017年度の事業計画の報告および今後の調査・研究の内容について審議を行った。運営委員会での決定事項を踏まえ、実務的な会議を大谷センター長、阿部特任講師、依田事務補佐員で、必要に応じて不定期に開催した。

＜2017年度 高大接続研究センター運営委員＞

名 前	所 属
大谷 尚	大学院教育発達科学研究科 教授、附属高大接続研究センター長
植田 健男	大学院教育発達科学研究科研究科長・教授、元附属中・高等学校長
江頭 智宏	大学院教育発達科学研究科 准教授
柴田 好章	大学院教育発達科学研究科 教授
内田 良	大学院教育発達科学研究科 准教授
清河 幸子	大学院教育発達科学研究科 准教授
窪田 由紀	大学院教育発達科学研究科 教授
阿部英之助	大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター 特任講師
中嶋 哲彦	大学院教育発達科学研究科 教授、附属中・高等学校長
原 順子	附属中・高等学校 副校長
三小田博昭	附属中・高等学校 主幹教諭

(2017年4月現在)

＜高大接続研究センターの組織図＞



(2) 活動

高大接続研究センターの事業は、①高大接続型教育とグローバル教育に関する調査研究、②高大連携プログラムの推進と高大接続のための高度化とAP化、③附属学校から名古屋大学へのグローバル人材育成を目的とした高大接続入試の実現、④研究成果の社会への発信と高大接続のためのネットワーク構築、⑤教職に就くための高大接続改革についての理解を促進するプログラムの開発およびアドミッション・オフィサー養成プログラムの構築である。

①高大接続型教育とグローバル教育に関する調査研究

2017年度は、高大接続や大学入学選抜などに関する講演会やセミナーに参加し、情報の収集および調査を行った。

日 程	タイトル・内容	場 所
2017年4月21日	第140回招聘セミナー第1回「アドミッション担当教職員支援セミナー」『大学入学選抜における共通試験の現状と課題』大塚雄作氏（大学入試センター・教授）林篤弘氏（名古屋工業大学・教授）	名古屋大学文系総合館 カンファレンスホール
2017年 5月24～26日	平成29年度全国大学入学選抜研究連絡協議会大会（第12回）	富山国際会議場
2017年6月27日	高大連携授業と単位取得予約型授業（高校生科目等履修生）についての聴き取り調査	秋田県立大学本荘 キャンパス
2017年7月21日	第141回招聘セミナー第2回「アドミッション担当教職員支援セミナー」『高大接続改革に何がかけているのか』荒井克弘氏（東北大学名誉教授・大学入試センター名誉教授）	名古屋大学文系総合館 カンファレンスホール
2017年7月28日	名古屋大学第3回教育基盤連携本部セミナー「総合的評価のためのテストスコア合成の考え方」加藤健太郎氏（ベネッセ教育総合研究所・主任研究員）	名古屋大学 ESホール
2017年9月28日	第87回客員教授セミナー第3回「アドミッション担当教職員支援セミナー」『総合的且つ多目的な評価に基づく入学選抜とその学修成果の可視化－九州大学21世紀プログラムを事例に－』木村拓也氏（九州大学人間環境学研究院・准教授）	名古屋大学文系総合館 アクティブラーニングスタジオ
2017年12月6日	名古屋大学 高大接続改革シンポジウム「国立大学におけるAO・推薦入試の現在と未来：高校・大学の接続と連携」	名古屋大学IB電子情報館 大講義室
2018年1月19日	第146回招聘セミナー第5回「アドミッション担当教職員支援セミナー」『韓国の入試専門官の職務内容と養成システム』山本以和子氏（京都工芸繊維大学アドミッションセンター・准教授）	名古屋大学文系総合館 アクティブラーニングスタジオ

②高大連携プログラムの推進と高大接続のための高度化とAP化

高大連携プログラムの推進では、高校生向け講座「学びの杜・学術コース」の運営を行った。この講座は、夏季休暇を中心に7月から翌2月にかけて、名古屋大学の教員を中心とした学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、それぞれの学問領域における大学レベルの「学び」を体験する機会を高校生たちに提供するもので、2005年の開始から12年目を迎えた。受講者に実施したアンケート結果から、この講座は名古屋大学への進学を志望する高校生にとっては、その志望意欲を強くする機会であり、また名古屋大学以外への進学を志望する高校生にとっては、志望する学部の研究内容を知ることができる良い機会となっていることが分かった。また、講師同士の情報交換や経験交流、また本センターからの連絡を目的として、講師の先生方の了解を得た上で、メーリングリストを立ち上げた。

夏季休暇中に「中津川研修センター」を利用して2泊3日の短期集中型で行っている附属学校の「中津川プロジェクト」（2017年8月8-10日）において、運営のサポートを行った。

今年度から本センターが催行に携わるようになった附属学校の「一日総合大学」は、高校2年生を対象に進路決定や「キャリア形成」の助けとして開催されるもので、今年度は2017年10月5日に開催した。講師として招いた名古屋大学の各学部の教員から学部・学科についての紹介や研究内容を高校生が直接聞くことが出来る機会を提供することができた。

高大接続のための高度化とAP化については、高校生に対して「高大連携授業・単位取得予約型授業」を行っている秋田県立大学を2017年6月27日に訪問し、「単位取得予約型授業」を導入することに至った経緯、その成果と課題、また高校生科目等履修生としての扱いや、運営上の課題などについて聴き取り調査を行った。大学の単位を高校生の段階で取得することが可能なプログラムについて把握し、その内容の整理と分析を行った。

③附属学校から名古屋大学へのグローバル人材育成を目的とした高大接続入試の実現

この事業内容は名古屋大学の第3中期目標に「K10 海外拠点等を活用し、海外の中等教育機関との連携を強化し、優秀な留生の確保ができるよう、推薦制度の導入など選抜方法等の改善に取り組む」とあることをその根拠として設定されたものである。しかし2017年度からの入学定員における留学生人数の扱いの変更や留学生教育についての本学のミッションについての再検討などを背景に、大学本部が第3中期目標からこれを削除したため、本研究科と本センターとしてもこの事業の直接の実現は断念し、新たな形態を再検討中である。

また、高大接続入試で先行する神戸大学附属中等教育学校で聴き取り調査を実施し、高大接続入試についての基礎資料の作成を行った。

④研究成果の社会への発信と高大接続のためのネットワーク構築

2017年度は公開講演会の開催、名大祭研究公開セミナーへの参加、高大接続に関するシンポジウムやセミナーでの講演で、本センターの研究・事業成果の一部を社会に発信した。また2018年3月に「高大接続研究センター紀要第2・3合併号」を発刊した（本紀要）。

・公開講演会

2018年2月3日に名古屋大学ESホールにおいて、公開講演会「高大を接続する－高校と大学の教師の役割－」を開催した。

高大接続システム改革会議「最終報告」(2016年3月31日)では、「教員の資質の向上に向け、教員の養成・採用・研修の各段階を通じた抜本的な改革を行うことが必要である」とし、また中教審は2017年12月21日に「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～(答申)」を発表し、そこでは全国共通の新たな制度として、教育委員会と大学とが連携して設置する「教員育成協議会(仮称)」を設けることが示されている。また大学では教職課程の再課程認定が2018年度から開始される。このような状況も、この公開講演会の企画の背景となっている。

この公開講演会には東北から九州までの大学教職員、県内外の高校教職員、県外のエducational委員会関係者、附属中・高等学校保護者、教育産業関係者等、約100名の参加があった上、講演への質問や参加者アンケートへの書き込みなどからも、「高大接続」への関心の高さと問題意識の深さをうかがい知ることができた。



公開講演会の様子

＜第2回公開講演会ポスター＞

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター主催

第2回公開講演会

「高大を接続する」 —高校と大学の教師の役割—

2018年2月3日（土） 13:00～17:00（12:30開場）

会場：名古屋大学 ESホール（名古屋大学東山キャンパス ES総合館1F）

＜名古屋市中地下鉄名城線「名古屋大学駅」3番出口から横断歩道を渡った正面＞

現在、戦後最大の教育改革とも呼ばれる「高大接続改革」が進行中です。なかでも最も注目されているのは、2020年の現行センター試験の廃止と新たな大学入学共通テスト（仮称）の開始などの大学入学者選抜改革でしょう。

ところで高大接続システム改革会議「最終報告」（2016年3月31日）では、「教員の資質の向上に向け、教員の養成・採用・研修の各段階を通じた抜本的な改革を行うことが必要である」としています。また、中教審は、2017年12月21日に「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」を発表し、そこでは全国共通の新たな制度として、教育委員会と大学とが連携して設置する「教員育成協議会（仮称）」を設けることが示されました。また、大学では教職課程の再課程認定が来年度から始まります。

では、今から高校と大学は、そしてその教員は、何をどう考え、どう行動するべきなのでしょう。

このような課題のための参考として、当センターは今回の公開講演会を計画いたしました。

＜演題と講師＞

- **高校と大学とが対話的・協調的に実施する北米の大学入学者選抜**
—アドミッションオフィサーとカレッジカウンセラーの職務の調査を通して—
大谷 尚（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授・附属高大接続研究センター長）
- **大学との連携で行う名古屋大学教育学部附属中・高等学校の高大接続型学力形成**
山田 孝（前名古屋大学教育学部附属中・高等学校副校長、名古屋大学非常勤講師）
- **教師教育にとって『大学』と『学校現場』の関係を問い直す**
今津 孝次郎（愛知東邦大学教育学部教授・同教育学部長、名古屋大学名誉教授）

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター

○ 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 Tel/Fax : 052-789-4214

○ E-mail : chet@educa.nagoya-u.ac.jp ○ WEBページ : <http://chet.educa.nagoya-u.ac.jp/>



<プログラム>

<プログラム>

13:00 開会の辞

13:10 「高校と大学とが対話的・協調的に実施する北米の大学入学者選抜

ーアドミッションオフィサーとカレッジカウンセラーの職務内容の調査を通してー」

大谷 尚〔名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授、附属高大接続研究センター長〕

14:00 「大学との連携で行う名古屋大学教育学部附属中・高等学校の高大接続型学力形成」

山田 孝〔前名古屋大学教育学部附属中・高等学校副校長、名古屋大学非常勤講師〕

14:50 休 憩

15:00 「教師教育にとって『大学』と『学校現場』の関係を問い直す」

今津 孝次郎〔愛知東邦大学教授・同教育学部長、名古屋大学名誉教授〕

16:30 閉会の辞



<講師プロフィール>



今津 孝次郎

京都大学大学院教育学研究科博士課程満期退学、博士（教育学）。三重大学教育学部助教授、名古屋大学教育学部助教授、同大学院教育学研究科教授を歴任。2013年定年退職後現職。研究分野は「教育社会学」「学校臨床社会学」「発達社会学」。著書は『学校臨床社会学ー教育問題の解明と解決のためにー』新曜社、『教師が育つ条件』岩波新書、『学校と暴力ーいじめ・体罰問題の本質ー』平凡社新書など。



山田 孝

名古屋市立中学校、私立高等学校教諭を経て1989年名古屋大学教育学部附属中・高等学校教諭。2001年同校研究部長。「総合的な学習の時間」の先行事例として全国的に注目を集めた独自教科「総合人間科」の立ち上げと運営に尽力。2010年から2017年3月まで同校副校長。現在名古屋大学非常勤講師。附属学校在職時の担当教科は地歴（世界史）。

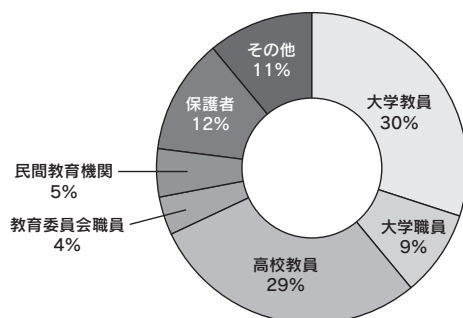


大谷 尚

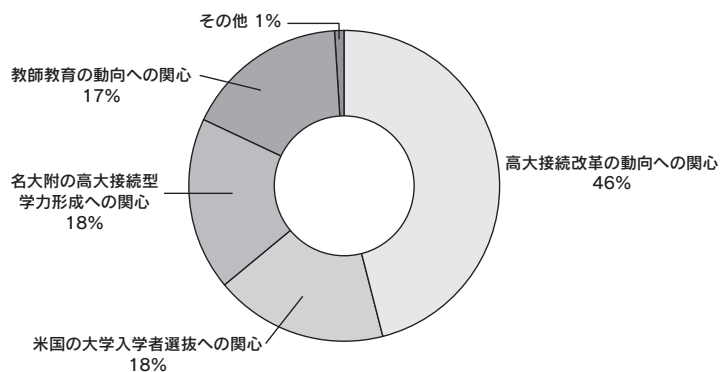
筑波大学大学院博士課程教育学研究科中退。長崎大学教育学部助手、講師、名古屋大学教育学部助教授を経て現職。2007-2010年大学院教育発達科学研究科副研究科長。2010-2013年名古屋大学教育学部附属中・高等学校校長（併任）。2013-2014年同副研究科長・附属中等教育研究センター長。2015年から附属高大接続研究センター長。研究分野は「学校情報学」。

<公開講演会のアンケート集計結果>（回収率約69.5％）

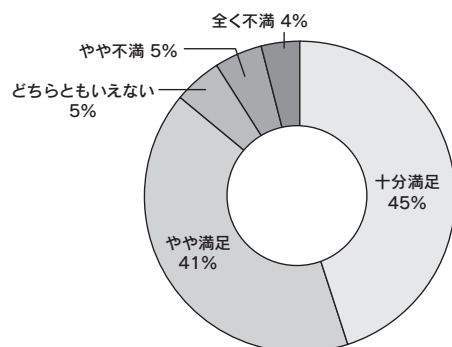
アンケート回答者の所属



参加した動機（複数選択可）



公開講演会への満足度



・高大接続に関する講演

センター長である大谷尚教授と専任教員である阿部英之助特任講師は、研究成果の社会への発信のために、下記の講演を行った。

日 程	タイトル・内容	場 所
2017年 5月5～6日	「現代の教育政策と教育経営に関する国際会議 (International Conference on Contemporary Education Policy and Management 2017.5/5- 5/6)」 基調講演『High School and University Articulation Reforms in Japan: One of the Most Revolutionary and Comprehensive Education Reforms Since the World War II』（英語で講演） ＜大谷＞	モンゴル国立教育大学 (モンゴル・ウランバートル)
2017年 6月10～11日	第58回名大祭研究公開セミナー 「高大接続改革と今後の高等教育、大学教育、大学 入学選抜について」＜大谷・阿部＞	名古屋大学IB電子 情報館会場教室
2017年8月10日	「高大接続改革の現状と課題」＜大谷＞	名古屋経済大学
2017年10月5日	平成29年度第4回アドミッション公開セミナー 「高大接続改革を考える」＜大谷＞	琉球大学
2017年12月24日	第26 回全国教育研究交流集会in 東京 「高大接続改革の動向と多様化する大学入試」 ＜阿部＞	全国教育文化会館 (エデュカス東京)
2018年1月9日	教員研修会「商業教育のこれからと高大接続改革」 ＜阿部＞	岡山県立倉敷商業高等学校

・レクチャーシリーズ

本センターの重要な事業のひとつである「レクチャーシリーズ」の収録・配信を行った。これは専門家を講師に招き、高大接続に関する話題について講じた様子を収録して本センターのWEBページで広く配信するもので、本学の高等教育研究センターと共催で開催した公開講演会、個別収録など合計3本を実施した。またこれらの逐語記録をセンター紀要第2・3合併号（本紀要）に掲載した。



10月2日の公開講演会の様子

【レクチャーシリーズの内容】

収録日	タイトル	講 師	収録場所
2017年10月2日 (公開講演会)	「IRTとCBTの光と影-高大接続改革の夢か現か幻か-」	野口 裕之 (名古屋大学名誉教授、名古屋大学アジア共創教育研究機構客員教授)	教育学部棟 第3講義室
2018年1月15日 (個別収録)	「高大接続を目指す『キャリア教育』－『ボランティア』から『サービス・ラーニング』そして『インターンシップ』へー」	今津 孝次郎 (愛知東邦大学教授・教育学部長、名古屋大学名誉教授)	教育学部 大会議室
2018年2月7日 (個別収録)	「高大接続で問われるべき能力と適性とは？」	村上 隆 (中京大学教授・現代社会学部長、名古屋大学名誉教授)	教育学部 大会議室

・高大接続研究センター紀要

2018年3月に発行した本著「高大接続研究センター紀要第2・3合併号」では、2017年3月に米国4大学で行った米国大学のアドミッション部門とアドミッションズ・オフィサーに関する調査報告や、2017年9月に行った米国のアドミッションズ・オフィサー協会の全体会議の調査報告、また本センターの事業である「レクチャーシリーズ」の逐語記録などを中心に掲載した。この内容を名古屋大学学術機関リポジトリに登録し、そこからの閲覧・ダウンロードを可能にした。

・WEBページ

2015年度に開設した本センターのWEBページでは、高大接続に関する最新情報や全国の大学に設置されている高大接続関連の研究センターへのリンクを掲載し、高大接続関係のあらゆる情報がこのページを通して得られるように、引き続き内容の充実を図った。

⑤教職に就くための高大接続改革についての理解を促進するプログラムの開発およびアドミッション・オフィサー養成プログラムの構築

・『教職を志望する名大生のための「高大接続」セミナー』

現在の本学の教職課程を高大接続改革に対応したものにするための教職課程開発や、高大接続についての学習など、大学側と高校側に必要とされる人材育成のためのカリキュラム開発を目指すために2016年度に事業に追加された「教職に就くための高大接続改革についての理解を促進するプログラムの開発」では、教員採用試験直前である2017年7月12-13日に「第2回教職を志望する名大生のための『高大接続』セミナー」をそれぞれ文系地区と理系地区とで開催した。セミナーでは現在進められている大学教育改革や大学入学者選抜改革、また学習指導要領改訂のポイントなどについて講じた。教職を志望する学生や高大接続改革に関心を持つ教員の参加があった。参加は学部生8名、大学院生5名に加え、科目等履修生1名、教員6名の合計20名であった。

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター主催

学部・研究科は
問いません。
ご都合のよい方
にご参加下さい。

第2回 教職を志望する名大生のための 「高大接続」セミナー

教職を志望している名大生の皆さん！

教員採用試験
直前！
名大生なら
知って
おきたい！

2020年のビッグイベントは「東京オリンピック・パラリンピック」の開催ではありません。現在のセンター試験を廃止して新たに導入される「大学入学共通テスト（仮称）」が実施されます。さらにその4年後には、新たな高校学習指導要領に基づく発展型のこのテストが導入されます。これらは現在、文部科学省が急速に進めている高大接続改革によるもので「戦後最大の教育改革」ともいわれています。


このセミナーでは、高大接続改革について分かりやすく解説した上で、今後の高校教育改革、大学教育改革、大学入学者選抜改革について一緒に考えてみたいと思います。また、「学習指導要領改訂のポイント」や「教育改革動向」など、教員採用試験に役立つ内容をお話します。是非、ご参加ください。

対象：名古屋大学の学部生、大学院生、研究生、科目等履修生、教職員
日時・場所：2017年7月12日（水）18：15～19：45 教育学部棟2F 第3講義室
2017年7月13日（木）18：15～19：45 ES総合館2F ES023講義室

講師：大谷 尚（教授・高大接続研究センター長・元附属学校長）
阿部 英之助（高大接続研究センター特任教員）

申込：chet@edu.nagoya-u.ac.jpまで、①ご所属、②お名前、③参加希望日を
明記の上、メールでお申し込みください。

★申込は参加人数把握のためにお願ひしています。申込をしないでなくても、当日来場してくださって構いません。なお記録のため、よろしければ参加者には当日、ご所属・お名前を書いて下さるようお願いいたしますので、ご協力をお願いいたします。



・アドミッション・オフィサー養成プログラムの構築

米国のアドミッション・オフィサーやカレッジ・カウンセラー（高校側進路指導教員）が参加する全体会議を調査するため、協会のひとつであり、最大級の規模を持つNACAC（National Association for College Admission Counseling）が2017年9月14-16日に米国・ボストンで開催した「National Conference 2017」に本センター長の大谷が参加した。



「Conference」のセッションの様子

「アドミッション・オフィサー」は、高大接続システム改革会議の「中間まとめ」（2015年9月）と「最終報告」（2016年3月）で、文部科学省関係公文書に初めて登場した概念であるが、そこでは高大接続改革後の入学者選抜を担うアドミッション・オフィサーに触れ、「多面的・総合的の評価による入学者選抜を支える専門人材の職務の確立・育成・配置等に取り組むことが必要」としている。しかし、当該人材を養成するプログラムは我が国に無いため、本センターでは、本研究科と連携して新たな研究課題として進めている。

2016年度に研究科長裁量経費の支援を受けた事業名「高大接続型選抜を担うアドミッション・オフィサー養成プログラムの構築に関する研究」を実施するために、2017年3月13-20日に米国マサチューセッツ州の4大学において、アドミッション部門とアドミッション・オフィサーについての実態調査を行った。そこでアドミッション・オフィサーに必要とされる資質、能力、学位、採用基準、職務内容、訓練機会、生涯のキャリアプラン、またアドミッション部門とIR部門との連携等について情報を得たが、アドミッション・オフィサーと高校側のカレッジ・カウンセラーの合同の協会であるNACACやAACRAO（The American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers）、NEACAC（The New England Association for College Admission

Counseling) などが、アドミッション部門の発展や職務スキルの向上に大きく機能していることも明らかになった。そこで、実際にNACACの全体会議に参加し、調査を行った。

この会議に参加したことで、米国大学のアドミッションについて、さらに具体的な情報を得ることができただけでなく、アドミッション・オフィサーとカレッジ・カウンセラーとが生徒のためにより優れた仕事を提供できるよう、どのような情報交換と経験交流を行っているのかを知ることができた。詳しくは本紀要の「2017 大学入学者選抜に関する全米大会への参加報告」で報告する。

・「日本型アドミッション・オフィサー養成とカレッジ・カウンセラー（高校側進路指導教員）育成のためのプログラムの構築」

前述の通り、昨年度「研究科長裁量経費」の支援を受け、事業名「高大接続型選抜を担うアドミッション・オフィサー養成プログラムの構築に関する研究」として、米国4大学でアドミッション部門とアドミッションズ・オフィサーの聴き取り調査を行った。その結果、アドミッションズ・オフィサーに必要とされる資質、スキル、専門的知識などの情報を得たが、この職は「学部単位で入学者を決めない」「教員が入学者選抜に関わらない」という特徴を有する米国の学部入学者選抜制度に基づいているため、この専門職を日本型に再構築する必要も明らかになった。その際、大学のアドミッションズ・オフィサーと呼応し協働する高校側のカレッジ・カウンセラー（進学指導教員）の機能が重要であることが明らかになった。そこで昨年度に得られた知見を基盤とし、アドミッションズ・オフィサーの養成とカレッジ・カウンセラーの育成のためのプログラムの構築を研究するため、2017年度の「研究科長裁量経費」に事業名「日本型アドミッション・オフィサー養成とカレッジ・カウンセラー（高校側進学指導担当者）育成のためのプログラムの構築」を申請し、支援を受けて研究を進めた。

具体的には、国内でアドミッション・オフィサーに類似する職務を行う大学の入試・AO担当教職員と、カレッジ・カウンセラーに類似する職務を行う高校側進路指導教員に対して、その職務内容や、必要とされる専門的知識・スキル、資質などについて聴き取り調査を行った。

日本型アドミッション・オフィサーの養成の課題を探るために、実際にアドミッション・オフィサーを大学で独自に養成し、その人材を活用した入試を行っている九州産業大学への聴き取り調査を行なった。九州産業大学は、今年度から自己推薦（AO）入試の1つとして「育成型入試」を導入しており、その中心的な役割を果たしているのが「KSUアドミッションオフィサー」という学内認定資格を持つ職員である。この「KSUアドミッションオフィサー」の資格を有する教務課および入試課の職員に、「育成型入試」の導入の背景とその概要、アドミッション・オフィサーの職務内容やその育成プログラムなどについて広範囲にわたり聴き取りを行った。

また、カレッジ・カウンセラーの育成の課題を探るために、昨年度から高大接続型入試を実施している神戸大学附属中等教育学校の聴き取り調査を行なった。高大接続型入試の導入の際の問題点、その評価基準と進学指導における高大接続の課題、そして今後の展望などについて聴いた。

以上の調査の結果をもとに実際の運用上の課題を抽出し、日本型アドミッション・オフィサー養成プログラムの構築のための検討を進めている。また、カレッジ・カウンセラー育成については、その概念整理を行なうとともに、米国と日本の高校教育や大学入学者選抜の相違を明らかに

しながら、日本の高等学校進学指導担当教員に必要される知識・スキルの育成を含むプログラムを検討している。それを通して、現在の日本の高校での大学進路指導の問題についても明らかにすることになる。

4. 2017年度「学びの杜・学術コース」

依田 理恵子

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心として、学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生を対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについてわかりやすく解説し、知の探究の厳しさと愉しさを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」で、2005年の開始から12年目を迎えた。大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生が各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のヴィジョンを広げたり、キャリア・デザインへと発展させたりできるように企画されている。

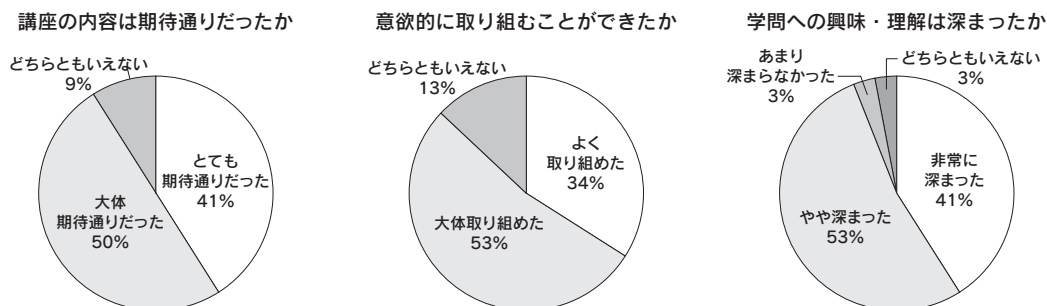
今年度は物理学探究講座、生命科学探究講座、地球市民学探究講座、チーム医療（多職種連携医療）探究講座、インフラ工学探究講座、人文学探究講座、電子工学探究講座、人間発達科学探究講座、そして新たに視覚文化探究講座を加えた9講座が開講された。以下に、それぞれの講座後に行った受講者アンケートの結果を記す。なお、物理学探究講座、生命科学探究講座、地球市民学探究講座の3講座は名古屋大学教育学部附属高等学校のSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）授業の一般公開として開講されている。

（1）各講座のアンケート結果のまとめ

＜物理学探究講座＞ 受講者：38名

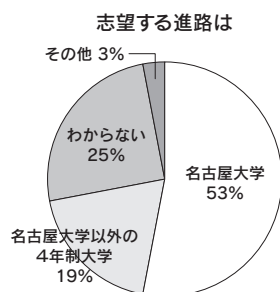
今日、科学的に広く受け入れられている宇宙の誕生と進化は、相対性理論、量子論により発展してきた。第1部は「特殊相対性理論」、第2部は「ブラックホール」、第3部は「宇宙論と量子論」、そして第4部は「観測的宇宙論」について学ぶ講座である。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて



講座内容については91%の受講者が「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と回答した。“意欲的に取り組むことができたか”という質問には87%の受講者が「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。“学問への興味・理解が深まったか”という質問には94%の受講者が「非常に深まった」「やや深まった」と回答した。

○志望する進路



志望する進路は、受講者の53%が「名古屋大学」、19%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。「わからない」という回答は25%だった。約半数の受講者が「名古屋大学」と回答したことから、本講座が“名古屋大学の講義を体験する良い機会”であると高校生に認識されており、受講者の進路選択・決定に一定の役割を果たしているのではないかと考えられる。

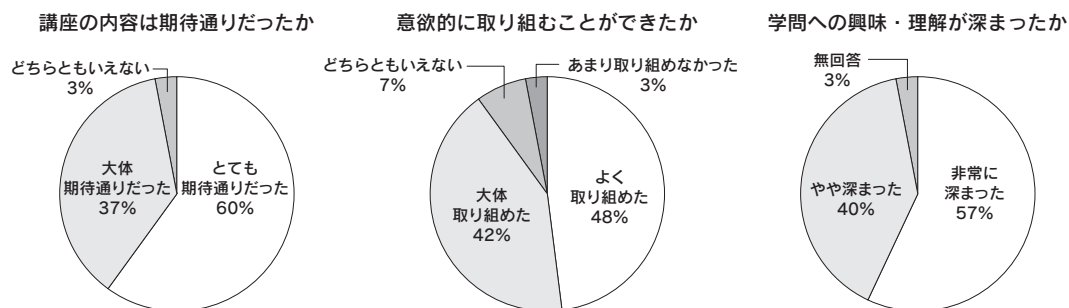
○受講者の感想（一部抜粋）

- ・講義は私にとってはとても難しい内容だったが、どの先生方も分かりやすく解説してくださったので、初めてでも理解がしやすかった。今まで宇宙論について学んだことはなかったが、多くの新しい知識を得られて楽しかった。（高1・女子）
- ・先生方は専門分野で活躍されていらっしゃるの、とても刺激になった。自由に質問できるのもよかった。（高1・女子）
- ・大学の物理はとても難しいことをやっているということが分かった。観測や思考からさまざまな宇宙の姿を見ることが出来た。物事には人それぞれのアプローチの仕方や物の見方があって、それらを統合させることが大切だと思った。（高1・男子）
- ・大学では文学を学びたいと思っているが、理系でないと勉強できないことを学ぶために受講した。文学を学ぶためには国語や歴史だけでなく、物理や科学のような理系の科目も必要だと感じた。（高1・女子）
- ・宇宙は一見、私たちとあまり関係のないように思われるが、宇宙の起源について知ることは自分たちの起源を知ることなのだということが分かり、宇宙と私たちは密接な関係があると思った。（高1・女子）
- ・先生がどのように研究を行なっているのかを知ることができ、今後の自分の研究に活かすことができると思った。（高1・女子）
- ・どんな分野でも限界はなく、どこまでも詳しく突き詰めることができるのだと思った。（高1・女子）

<生命科学探究講座> 受講者：33名

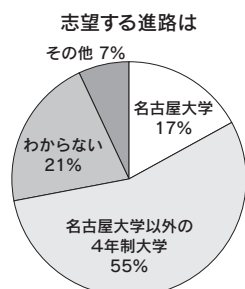
生物や植物の多様性、鉱物と生物、人類進化史、動物生産、消化のメカニズムなど、多様なテーマで生命科学について学ぶ講座である。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて



講座内容については97%の受講者が「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と回答した。「意欲的に取り組むことができたか」という質問には90%の受講者が「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。また「学問への興味・理解が深まったか」という質問には97%の受講者が「非常に深まった」「やや深まった」と回答した。

○志望する進路



志望する進路については、受講者の17%が「名古屋大学」、55%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。また21%が「わからない」と回答した。

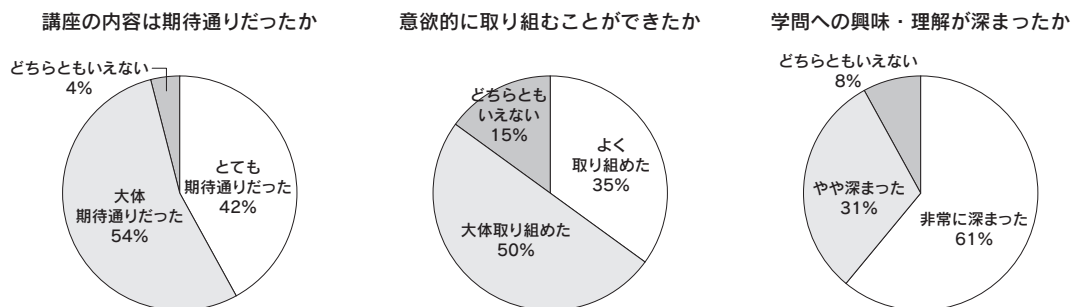
○受講者の感想（一部抜粋）

- たくさんの分野の講義を受けてみて、興味を持てるが多かった。そのため受講前にはなかった考え方が多くできるようになった。(高1・男子)
- 今まで全く知らなかったことを新しく知ることができてよかった。いろんな学科の先生の話を聞いたので、大学の進路について考えることができた。(高1・男子)
- 博物館での講義はとても新鮮だった。質問できる時間があつたので、先生と直接コミュニケーションを取ることができ、とてもいい経験だった。(高1・女子)
- 「学びの杜」を受講してよかった。新しい視野が広がった。ひと口に「生命科学」というが、鉱物から骨、生物全体などがあり、意外だった。(高1・女子)
- 生き方や行動の仕方、考え方は、先生によって違うけど、「気になったらすぐに調べて行動する」というところは同じだと思った。私も興味を持ったことをすぐに調べるということを日頃から意識したい。(高1・女子)
- 一見、生物に関係なさそうな話題でも、つながりを見ていくと生物にたどりついて面白かった。いろいろな分野の先生方のお話を聞いて、自分の将来の視野が広がった。(高1・女子)

<地球市民学探究講座> 受講者：26名

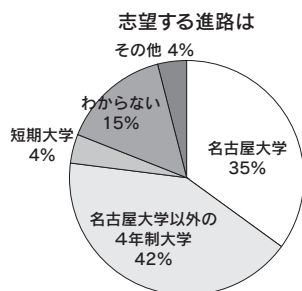
偏見・差別、環境、病気、海外労働など、グローバル化の中のさまざまな問題を取り上げながら異文化理解の方法や地球市民としてのありかたについて考える講座である。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて



講座内容については96%の受講者が「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と回答した。「意欲的に取り組むことができたか」という質問には85%の受講者が「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。また「学問への興味・理解が深まったか」という質問には92%が「非常に深まった」「やや深まった」と回答した。

○志望する進路



志望する進路については、受講者の35%が「名古屋大学」、42%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。また「わからない」が15%であった。

○受講者の感想（一部抜粋）

- 地球が抱えている問題はとても漠然としていて、一見解決できないようにも思えるが、一人ひとりが身近で些細な行動をするだけでも解決への一歩になるということが印象に残った。（高1・男子）
- 何人もの先生から興味深い話を聞かせていただいたが、それぞれ違う分野のことを話されているのに共通する部分があり、そしてその部分にも先生の個性が反映されていることに面白みを感じた。（高1・男子）
- 受講して強く感じたことは、これからの世界は今までのままではいけないということである。これからの社会には人口減少、グローバル・ボーダレス化、気候変動など、今まで経験したことのない大変化が起こるのだということがわかった。（高1・女子）

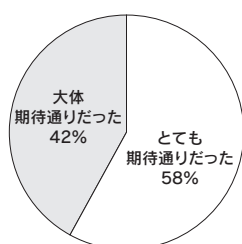
- ・講義には興味があるものとなないものがあったが、話や動画、そしてグループワークなどで実体験として学習できたので、終わったときにはすべてに興味を持つことができた。地球市民学は誰かがどこかで必ず感じていることを勉強するので、感情移入しやすい学問だと思った。(高1・女子)
- ・新しく知る知識が多く、とても新鮮だった。今まで足を踏み入れたことのない分野も知ることができた。意外性や驚き、発見があって、とても楽しかった。(高1・女子)

＜チーム医療（多職種連携医療）探究講座＞ 受講者：12名

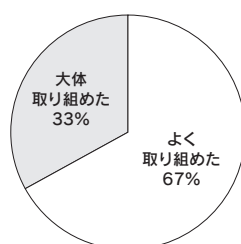
我が国では超高齢化社会を迎え、地域医療現場にも時代にあった新たなシステムや考え方が求められている。そのひとつが「チーム医療（多職種連携医療）」である。医療機関だけでなく地域社会で在宅医療、訪問看護、服薬指導、リハビリ、介護、福祉から社会活動までをつなげること、すなわち、多職種協働によるチーム医療の提供により、一人ひとりの住民が地域社会で幸せに暮らせることを目指す「チーム医療（多職種連携医療）」について学ぶ講座である。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて

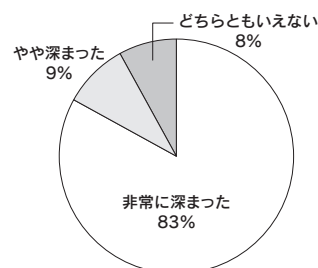
講座の内容は期待通りだったか



意欲的に取り組むことができたか

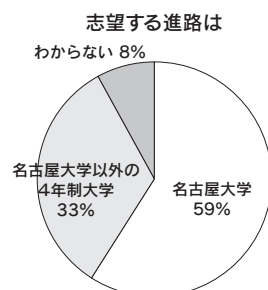


学問への興味・理解が深まったか



講座内容について「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と、受講者全員が回答した。“意欲的に取り組むことができたか”という質問には受講者全員「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。また“学問への興味・理解が深まったか”という質問には92%が「非常に深まった」「やや深まった」と回答した。

○志望する進路



志望する進路は59%が「名古屋大学」、35%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。「わからない」は8%だった。本センターの担当者がワークショップのサポートを行うために実際にこの講義に参加したが、医学、薬学などの学科を志望する受講者が多かった。59%の受講者が「名古屋大学」と回答したことから本講座が、名古屋大学医学部を体験する良い機会であり、また医学部以外を志望する高校生にとっては、医療関係の講義を体験する良い機会であったと考えられる。

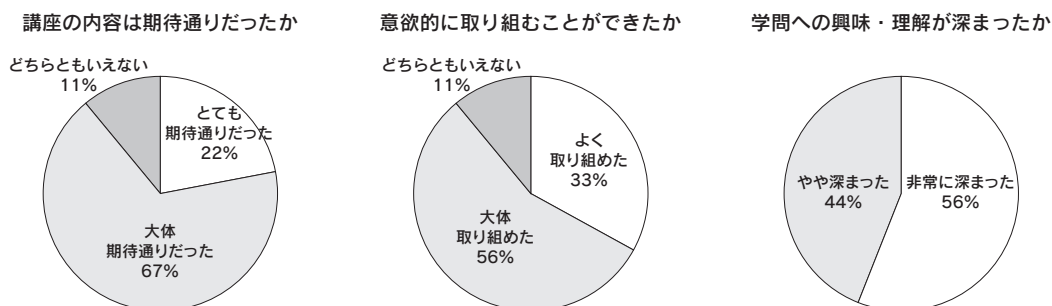
○受講者の感想（一部抜粋）

- ・医療系の体験ができてとても楽しかった。またいろいろな職種を学ぶことができてよかった。（高2・女子）
- ・医療といっても手術だけでなく、研究や検査等をする職業があることがわかった。シミュレーションは初めて体験したが、日本の技術の発展に驚かされた。（高1・男子）
- ・最新の手術の器具を体験することができて、外科のイメージががらりと変わった。とても貴重な経験だった。（高1・女子）
- ・医学のことのほかに、人生で大事なことも教えていただいたのでとても良かった（高2・男子）

＜インフラ工学探究講座＞ 受講者：9名

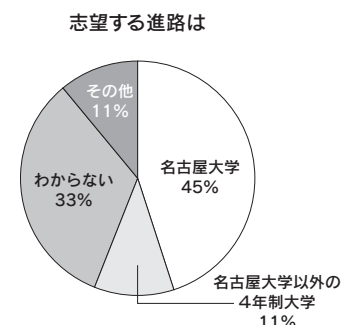
道路・鉄道・上下水道・電力施設・通信施設・堤防・港湾施設・防災施設などのインフラの役割を、「橋の老朽化と対策」「津波のメカニズムと予測」「液状化の発生と対策」の3つのテーマを通して、近年頻発する地震などに対する防災・減災対策と、社会問題になりつつある老朽化の観点から学ぶ講座である。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて



講座内容については受講者の89%が「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と回答した。“意欲的に取り組むことができたか”という質問には、89%が「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。また“学問への興味・理解が深まったか”という質問にも全員が「非常に深まった」「やや高まった」と回答した。

○志望する進路



志望する進路については、受講者の45%が「名古屋大学」、11%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。また、35%が「わからない」と回答した。

○受講者の感想（一部抜粋）

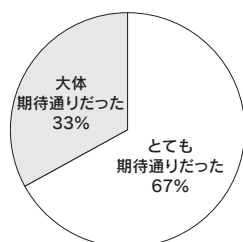
- ・土木学は人々の生活を支えるために重要な学問であり、日常生活に結びついていると感じた。（高1・男子）
- ・講師の先生が、高専でない受講者もいるということで、専門的な言い回しを避けてうまく説明して下さったので、今まで得た知識も改めて勉強しなおすことができた。（高専3・男子）
- ・インフラ工学は私たちの日常生活に密接に関係しているのだと知り、関心を持てた。南海トラフ巨大地震は工業・農業とも生産高が高い愛知県に経済的に大きなダメージを与えると聞いた。いつ起こるか分からないため、他人事とは思わずに、今自分にできることを考えていきたい。（高1・男子）
- ・津波の対策など、新しく知ることが多くてよかった。災害を減少させる技術はまだ発展途上であると感じた。（高1・男子）

<人文学探究講座> 受講者6名

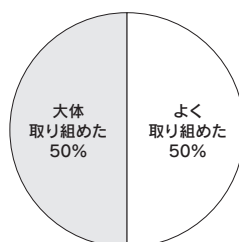
人間のさまざまな営みを通して人間について考える学問が人文学である。過去の、そして現在の人間がどういう存在であるかを知ることは未来に向けてとても大切なことである。『『鳥獣戯画』を読む』『王朝物語と絵画』『環境と文学』『家康の神格化と画像』の4つの講義を通して、人文学の広い世界を知る講座である。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・関心の深まりについて

講座の内容は期待通りだったか



意欲的に取り組むことができたか



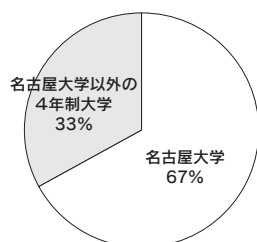
学問への興味・理解が深まったか



講座内容については全員が「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と回答した。“意欲的に取り組むことができたか”という質問には受講者全員が「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。また“学問への興味・理解が深まったか”という質問には受講者全員が「非常に深まった」と回答した。受講者6名のうち4名が高校3年生であったこと、また非常に良い結果が出たことから、実際に進学を志望する文学部の講義を実体験できる良い機会になっているのではないかと考えられる。

○志望する進路

志望する進路は



志望する進路については、受講者の67%が「名古屋大学」、35%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。67%の受講者が「名古屋大学」と回答したことから、進学を志望する名古屋大学文学部の講義を実際に体験することができる良い機会になっていると推測することができる。

○受講者の感想（一部抜粋）

- ・巻物が年月をかけて形を変えていくということが非常に興味深かった。焼失や虫食いで破損したものをつぎはぎし、新たな物語を作り出していく作業はどこか日本人の本質を見た気がした。（高1・男子）
- ・昔のものが今の日本のサブカルチャー等に影響しているのが面白いと思った。室町時代のものが思っていたより面白いと知った。（高3・女子）
- ・文章と絵などの資料を関連付けて見ていくと、より理解が深まることが印象に残っている。（高3・女子）
- ・歴史の研究には、歴史の知識だけでなく数学など幅広い分野を学ぶことも大切だと感じた。（高3・女子）
- ・少しの疑問からでも、十分に研究のしがいがある内容に引き上げることができるのだということがわかった。研究を展開させていくのにも、自分で見たり、体験したり、聞いたりしたことが生きてくると思ったので、これからは積極的にこのような講座やセミナーに参加したいと思った。（高3・女子）

＜電子工学探究講座＞ 受講者：5名

高校で学ぶ数学・物理とラジオの関係を理解し、大震災の時に役立つトランジスタラジオを実際に製作することで、電子工学への第一歩を体験する講座である。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて

講座の内容は期待通りだったか

意欲的に取り組むことができたか

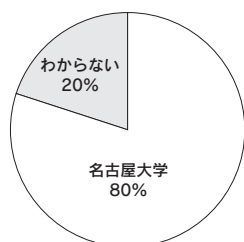
学問への興味・理解が深まったか



講座内容については受講者全員が「とても期待通りだった」と回答した。“意欲的に取り組むことができたか”という質問には受講者全員が「よく取り組めた」と回答した。また“学問への興味・理解が深まったか”という質問には受講者全員が「非常に深まった」と回答した。部品を組み立ててトランジスタラジオを製作する講座なので、受講者が興味・関心を持ち、意欲的に取り組みやすかったことから、良い結果が出ているのではないかと考えられる。

○志望する進路

志望する進路は



志望する進路については、受講者の80%が「名古屋大学」と回答した。また、「わからない」は20%であった。80%が「名古屋大学」と回答していることから、本講座が名古屋大学工学部の講義を体験する良い機会になっていると考えられる。

○受講者の感想（一部抜粋）

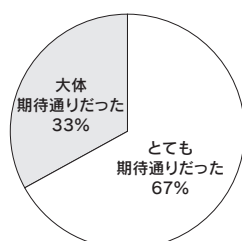
- ・大学で学ぶ物理について、少しだが聞くことができたので、高校での物理を早く終え、大学物理も学びたいと思った。(高2・男子)
- ・名古屋大学工学部への進学を考えており、電気・電子工学科が一番気になっていた。今回少しだけだが内容が分かって、とても良い経験になったし、ますます進学したくなった。(高2・女子)
- ・ラジオの組み立てが面白かった。(高2・男子)
- ・電波の仕組みが特に印象に残った。今まで一言で「電波」とっていたが、その仕組みまでは知らなかった。「電磁誘導」を利用して情報を飛ばしているのは面白いと思った。(高1・男子)

<視覚文化探究講座> 受講者：6名

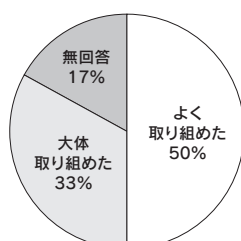
現代は視覚情報の時代である。写真、映像、アニメ、ゲーム、TV、インターネット、SNSと、とんでもない量の情報がひっきりなしに目に飛び込んでくる。私たちはそれらを日々受信し、理解し、そして発信しながら生活している。視覚情報について知り、そしてどのような思考ができ、また役に立つのかを、講義とワークショップを通じて体験し、考えていく講座である。

○講座の内容と取り組み、学びへの興味・理解の深まりについて

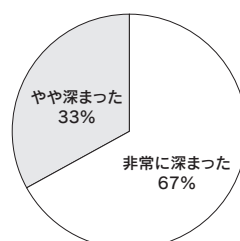
講座の内容は期待通りだったか



意欲的に取り組むことができたか



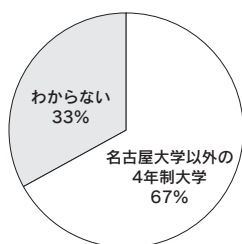
学問への興味・理解が深まったか



講座内容については受講者全員が「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と回答した。「意欲的に取り組むことができたか」という質問には83%が「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。また「学問への興味・理解が深まったか」という質問には受講者全員が「非常に深まった」「やや深まった」と回答した。

○志望する進路

志望する進路は



志望する進路については、受講者の67%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。また、「わからない」は33%であった。

○受講者の感想（一部抜粋）

- ・ポスターの作り方がとても参考になった。（高2・女子）
- ・先生方と直接話せて楽しかった。今の自分に繋がっていることが多く、何となく嬉しかった。（高2・女子）
- ・デザインはどの分野に進んでも使えるので、しっかり学んでおこうと思った。（高2・男子）
- ・将来、デザインの仕事をしたいので、とても勉強になった。（高2・女子）

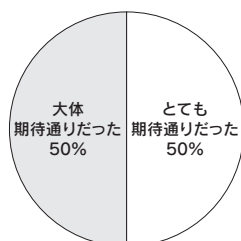
<人間発達科学探究講座> 受講者：9名

「第1コース【生涯教育開発】私たちはなぜ学ぶのか？（社会の中の学校）」「第2コース【学校教育情報】家庭と学校の協力による学びの創造」「第3コース【国際社会文化】異文化の出会いと自己発見のドラマ」「第4コース【心理社会行動】世界の見え方・聞こえ方」「第5コース【発達教育臨床】ストレスに対処する」の5つのコースを通じて、教育と人間発達について学ぶ講座である。

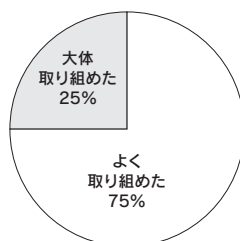
なお、受講者の欠席や台風による暴風警報発令によって、残念ながら第1コースと第4コースは開講されなかった。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて

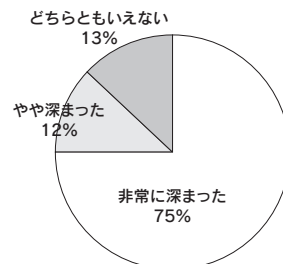
講座の内容は期待通りだったか



意欲的に取り組むことができたか

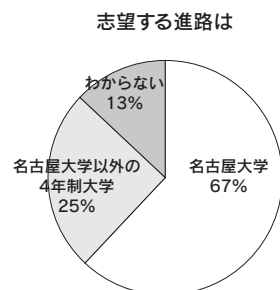


学問への興味・理解が深まったか



講座内容について受講者全員が「とても期待通りだった」「大体期待通りだった」と回答した。“意欲的に取り組むことができたか”という質問には受講者全員が「よく取り組めた」「大体取り組めた」と回答した。また“学問への興味・理解が深まったか”という質問には87%の受講者が「非常に深まった」「やや深まった」と回答した。

○志望する進路



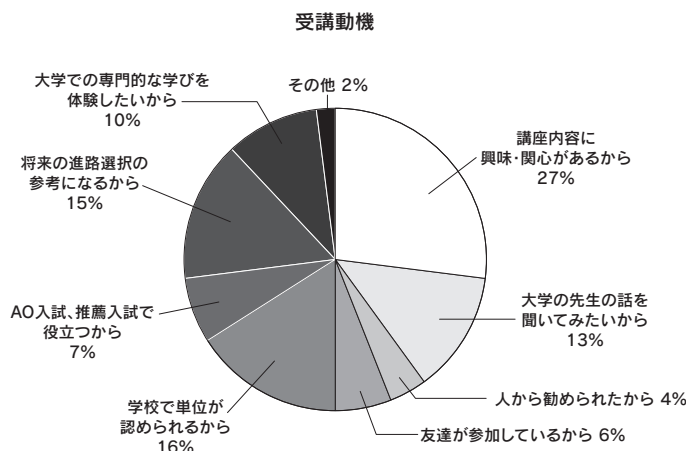
志望する進路については、受講者の62%が「名古屋大学」、25%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。また、「わからない」が13%であった。62%が「名古屋大学」と回答していることから、本講座が名古屋大学教育学部の講義を体験する良い機会になっていると考えられる。

○受講者の感想（一部抜粋）

- 心理学について興味はあったが知識は少なかったので、今回新たなことが学べてよかった。（高1・男子）
- ストレスとひと口に言ってもさまざまな種類があり、驚いた。また良い出来事だと思えることもストレスになるのが意外だった。講座の内容と関係の無い質問にも答えていただき、嬉しかった。（高1・女子）
- 名古屋大学ならではの面白く、自由な発想で講義が受けられたので、とても楽しかった。（高2・男子）
- 「日本人はボーリングで欧米人はテニス」というとらえ方がとても印象に残った。私たちは自信の無さもあり、口に出すということに抵抗があるが、それを少しずつ意識して変えていきたいと思った。（高2・女子）
- 今まで自分になかった考え方をたくさん知ることができて、少し価値観が変わった気がする。（高3・女子）
- 学習することは自己向上に繋がると考えればすごくやる気もでると思った。また教えることはヒトが変わるのを助けることであるので、すごく大変だと思った。（高2・男子）

<総計> 受講者数合計：144名

○受講動機（複数選択可）



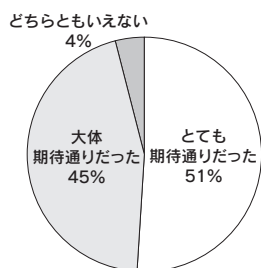
今回は、アンケート調査の方法に瑕疵があり、附属高校生以外の生徒の受講動機を集計することができなかったため、附属高校生の受講動機のみを集計した。

受講動機は「講座内容に興味・関心があるから」が全回答の27%だった（2016年度は40%）だった。「大学の先生の話聞いてみたから」「大学での専門的な学びを体験したいから」という“大学での学びの体験”を動機に挙げたのは全回答の23%だった（2016年度は29%）。また「将来の進路選択の参考になるから」は2016年度と変わらず15%だった。また、「学校で単位が認められるから」は2016年度の7%から16%に上昇した。

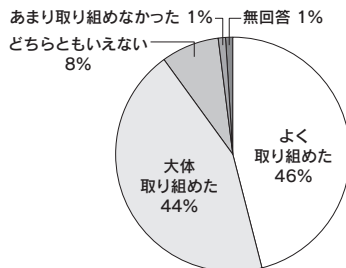
「学びの杜・学術コース」は、高校生の知的好奇心を満たすだけでなく、大学の学びを体験できるチャンスであり、大学への進学を志望する高校生にとって進みたい学部の研究内容を知る、または進路選択の参考にすることができる良い機会となっていると考えられる。

○講座の内容と取り組み、学問への興味・理解の深まりについて

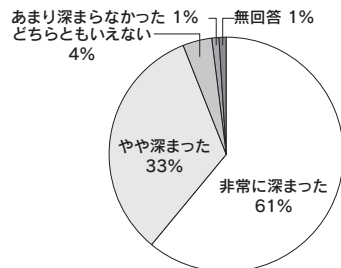
講座の内容は期待通りだったか



意欲的に取り組むことができたか



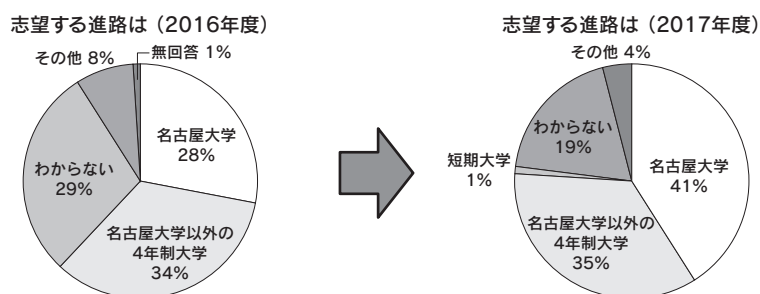
学問への興味・理解が深まったか



「講座内容は期待通りだったか」という質問には96%が「期待通りだった」と回答し、「意欲的に取り組めたか」という質問では90%が「取り組めた」と回答し、「学問への興味・理解が深まっ

たか」という質問では94%が「深まった」と回答した。これら3つの質問に対し、それぞれ良い結果が出ていることから、受講動機が「講座内容への興味・関心」ではない受講生も、新しい学問に触れること、知識の幅を広げることができる本講座に、非常に積極的に参加していると推測できる。本講座は高校生に大学レベルの高度な「学び」を体験する機会を提供することで、各自の興味や関心を育み、学ぶ意欲を高めることの一助になっているのではないかと考えられる。

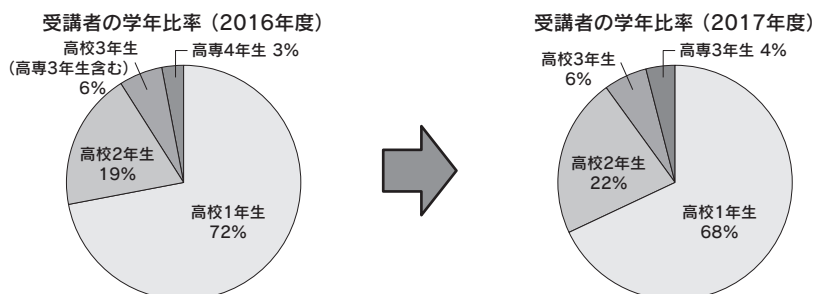
○志望する進路



志望する進路は、2017年度は受講者の41%が「名古屋大学」、35%が「名古屋大学以外の4年制大学」と回答した。28%が「名古屋大学」と回答していた2016年度と比較して13ポイント上昇した。名古屋大学の学びを体験することができる本講座は、名古屋大学への進学を志望する高校生にとって、志望大学の講義を体験することができる良い機会となっており、今年度はその傾向が強く出たと考えられる。また名古屋大学以外の大学への進学を志望する高校生にとっても、大学の学部の研究内容を知るための機会となっていると推測できる。

○受講者の学年比率

受講者の学年比率は、2017年度は高校1年生が72%、高校2年生が22%、高校3年生が6%、高専生4%だった。この比率は2016年度とほぼ同じである。7割近くが高校1年生であることから、本講座を受講することで自分の適性を知り、将来の進路や志望する学部を検討するために役立てようとしていると考えられる。



2) 講座運営について

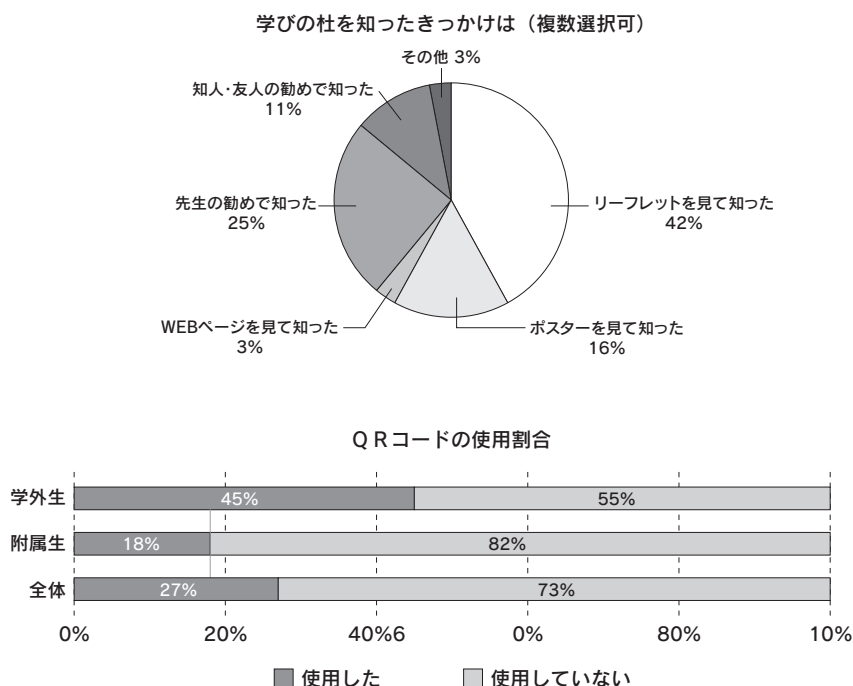
<今年度の試み>

1. 「ポスター」と「QRコード」

昨年度の活動のまとめの中で、年々減少傾向にある受講者数への対策を今後の課題として挙げた。ひとりでも多くの高校生に名古屋大学の講義を体験する機会を提供し、将来の進路選択の参考の一助となるようにと告知の方法を検討した結果、各高校の生徒に広く告知するにはポスターが有効ではないかということから、A3サイズのポスターを新たに作成し、リーフレットと一緒に各高校に送付した。これまでは、各高校1校あたり10部のリーフレットの送付していた。

ポスターには「学びの杜・学術コース」のWEBページのQRコードを掲載した。紙面スペースの関係から、ポスターには講座の詳しい内容が掲載することができなかったため、多くの高校生が持っているスマートフォンを活用し、QRコードからWEBページにアクセスすることで講座内容を閲覧できるようにした。また「学びの杜・学術コース」のWEBページでは、受講申込メールを送信できるような仕組みを設定したので、このQRコードはリーフレットにも同様に掲載した。

その結果、「学びの杜を知ったきっかけ」として16%が「ポスター」を挙げた（複数回答可）。「QRコード」は全体の27%が「使用した」と回答した。附属生以外では45%が「使用した」と回答した。（次のグラフを参照）この試みは一定の効果があったと考えられる。



2. 学びの杜のWEBページ

クリックすることでメーラーが自動に立ち上がり、そこに受講申し込みのメールの送信先アドレスをはじめ、件名、名前や住所など、必要な項目があらかじめ自動入力されるリンクを、「学びの杜・学術コース」のWEBページ上に設定した。これにより、申し込みの際に必要な項目の記入もれが大幅に減少した。このメーラーが立ち上がるリンクを使用しての受講申し込みは、全体の75%だった。

3. 「修了証」「受講証明書」「ワークシート」

これまで、ある一定回数受講した受講者には「修了証」を授与していたが、それには公印がなく、また受講した科目が明記されていなかった。一定の出席回数を満たし、かつ各講義で記入する「ワークシート」を提出した受講者に今年度から「修了証」と「受講証明書」を授与することにした。物理学探究講座で23名（うち4名は学外生）、地球市民学探究講座で19名、生命科学探究講座で26名（うち1名は学外生）、人文学で2名に授与した。

4. 「メーリングリスト」

講師同士の情報交換や経験交流、また本センターからの連絡を目的として、講師の先生方の了解を得た上で、メーリングリストを立ち上げた。

<今後の課題>

昨年度と比較して受講者数が1.5倍となったが、今後も告知方法について検討する。同大学のWEBページの「イベント情報」の欄に「学びの杜・学術コース」の開講についての情報掲載を依頼する他、外部のサイトも利用するなど、広く告知できるように検討する。

各講座の受講者数一覧表

講 座 名	受講者数	
	2016年度	2017年度
物理学探究講座	16名	38名
生命科学探究講座	28名	33名
地球市民学探究講座	26名	26名
チーム医療（多職種連携医療）探究講座*	2名	12名
インフラ工学探究講座	6名	9名
人文学探究講座	3名	6名
電子工学探究講座	6名	5名
視覚文化探究講座（2017年度開講）	1名	6名
人間発達科学探究講座	8名	9名
合計	95名	144名

*2016年度の講座名は「地域包括ケアシステム探究講座」

<2017年度「学びの杜・学術コース」リーフレット>

名古屋大学の知を高校生に 学びの杜・学術コース 2017

主催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 高大接続研究センター

高校生対象
受講料無料



— 学問の世界を知り、創造的な学びの力を育む —

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生の皆さんを対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の愉しみと厳しさを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」です。

大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生の皆さんが、各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のヴィジョンを広げたり、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されています。ぜひ、ご参加ください。

生命科学探究講座

生物多様性からみた生命および、生命を支えるしくみについて学び、生物の進化と多様性を、様々な角度から考えます。

物理学探究講座

「特殊相対性理論」「ブラックホール」「宇宙論と量子論」「観測的宇宙論」について学び、宇宙の誕生やその進化を考えます。

地球市民学探究講座

グローバル化がもたらす様々な問題について学び、異文化理解の方法、地球市民としてのあり方を考えます。

インフラ工学探究講座

インフラの役割と今ある問題、防災・減災対策について学び、安心・安全な生活とインフラ工学の関係を考えます。

電子工学探究講座

実際にトランジスタラジオを製作し、それを聴くことで、「電子工学への第一歩」を体験します。

チーム医療(多職種連携医療)探究講座

少子化・超高齢化時代を迎える日本に必要な「チーム医療(多職種連携医療)」について学び、「住民が地域社会で幸せに暮らせる社会」を考えます。

人文学探究講座

日本の中古から近世の絵画や文学に描かれた人間像を通して、人間とは何かを学びます。

視覚文化探究講座

写真、絵などの視覚情報について学び、そこでどのような思考ができ、役立つのかを、講義とワークショップを通して考えます。

人間発達科学探究講座

教育と人間発達について、教育学部の「生涯教育開発」「学校教育情報」「国際社会文化」「心理社会行動」「発達教育臨床」の5つのコースで学びます。

受講申し込みについて

申し込みは、①受講希望講座名(人間発達科学探究講座はコース名、人文学探究講座は日にち、地球市民学探究講座、生命科学探究講座、物理学探究講座、視覚文化探究講座は受講希望回を明記) ②学校名 ③学年 ④氏名(ふりがな) ⑤住所 ⑥自宅電話番号 ⑦当日連絡可能な携帯電話等の電話番号 を明記し、下記のメールアドレスへお願いします。

◎申し込みは取りまとめ、参加者が直接申し込んで下さい。◎申し込みが多数の場合は、各講座の申し込み締め切り後、抽選をおこないその結果を連絡します。◎会場・場所については、受講許可の案内通知の中でお知らせします。◎申し込み方法は、高大接続研究センターの「2017年度学びの杜・学術コース」のWEBページにも掲載されています。右下のQRコードを読み取り、アクセスしてご覧ください。◎申し込み確認や受講確定等の通知をメールで行いますので、携帯電話やスマートフォンの利用者は、必ず下記のメールアドレスから受信出来るようにしておいて下さい。

(申し込み・問い合わせ先)

〒464-8601 名古屋市中千種区不老町 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属 高大接続研究センター

chet@educa.nagoya-u.ac.jp (なお、高大接続研究センターの「2017年度学びの杜・学術コース」のWEBページからも「受講申し込みメール」を送ることができます。)



生命科学探究講座 SSH 名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

生命科学について、名古屋大学博物館、理学研究科、生命農学研究科の先生方に講義をしていただきます。

●一定回数受講した受講生には、「修了証」を授与します。

定員：30名	申し込み締め切り：7月7日(金)
担当：名古屋大学博物館、理学研究科、生命農学研究科、中部大学	

	7月13日(木) 15:00-17:00	担当者:吉田英一(名古屋大学)
1	鉱物と生物—地球上の物質循環と生命 地球上の物質循環と鉱物、生命との関係について、鉱物やコンクリーション標本などを用いて講義します。	
	7月14日(金) 14:00-16:00	担当者:門脇誠二(名古屋大学)
2	アフリカで生まれた人類が日本人になるまで アフリカで誕生した人類が、いつ、どのように日本列島にやってきたのでしょうか。人類進化史のドラマと日本人の起源の新事実についてお話しします。	
	7月19日(水) 15:00-17:00	担当者:東山哲也(名古屋大学)
3	花を知る 花は見て美しいだけでなく、植物の種の維持、新種誕生、人間の食糧生産に関わる重要な役割を持ちます。花の内部で起こることについて、研究の最前線を紹介します。	
	7月20日(木) 14:00-16:00	担当者:小田裕昭(名古屋大学)
4	食べ物はどうやって栄養になるか 食べたものが身体に取りこまれる消化吸収のメカニズムと、それが生物にとってどのような役割を果たすかについて学びます。	
	7月24日(月) 15:00-17:00	担当者:大路樹生(名古屋大学)
5	二枚貝から「中生代の海洋変革」を学ぶ 二枚貝を詳しく観察することによって、その構造がその生態と捕食者からの防御と深く関係していることを理解し、「中生代の海洋変革」との関連を学びます。	
	7月28日(金) 10:00-12:00	担当者:東田和弘(名古屋大学)
6	生物多様性(Biodiversity)—多様性って何だろう 生物多様性を例に、“多様性”の意味を考えます。多様性は守るべきか否かについて、参加者が自分自身で考えます。	
	7月28日(金) 13:00-15:00	担当者:藤原慎一(名古屋大学)
7	骨の形から復元する絶滅動物の姿 恐竜はどんな姿勢で歩いていたのでしょうか？現生の動物の骨や筋肉の特徴から、絶滅動物の姿勢を復元する方法について考えます。	
	8月23日(水) 10:00-12:00	担当者:井上直子(名古屋大学)
8	動物生産を科学する 食糧生産、特に動物生産について、現状を紹介しつつ、科学的な解決方法について解説します。	
	8月24日(木) 10:00-12:00	担当者:西田佐知子(名古屋大学)
9	植物から学ぶ生物の多様性 植物は地球上に約28万種いると言われています。なぜこんなに多様なのでしょうか？実際の植物を観察しながら、生物の多様性について考えます。	
	8月24日(木) 14:00-16:00	担当者:大場裕一(中部大学)
10	発光生物の科学 様々な光る生き物を紹介し、その発光のメカニズムと最先端研究への応用について解説します。	

学びの杜・学術コース 2017

物理学探究講座 SSH 名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

今日、科学的に広く受け入れられている宇宙の進化と誕生は、相対性理論、量子論により発展してきました。第1部では「特殊相対性理論」について、第2部では「ブラックホール」について、第3部では「宇宙論と量子論」について、そして、第4部では「観測的宇宙論」について学びます。数学、物理に対して特に興味を持っている生徒向けです。

●一定回数受講した受講生には、「修了証」を授与します。

定員：20名	申し込み締め切り：7月21日(金)
担当：大同大学、愛知教育大学、理学研究科	

第1部：特殊相対性理論		担当者：齊田浩見(大同大学)
この宇宙そのもの(ブラックホールなども含む)の姿や成り立ちを解明することは、現代物理学の大きな目標の一つです。そして、宇宙を研究し理解していく上で欠かせない物理学の基礎理論の一つが、特殊相対性理論です。		
特殊相対性理論は、重力がない場合の時間と空間の性質を記述する理論であり、例えば次のような結論が得られます：		
○速く運動する人ほど時間がゆっくり進み(時間の遅れ)、その速さが光の速さに近づくほど時間の流れは止まっていく。		
○棒が速く運動するほどその長さは短くなり(ローレンツ収縮)、その速さが光の速さに近づくほど棒の長さはゼロに近づいていく。		
これらの現象を理解するために必要な数学は、直線と双曲線の方程式です。直線と双曲線の説明もしながら、特殊相対性理論の本質的な基礎事項を講義します。		
1	7月25日(火) 10:00-12:00	
特殊相対性理論の基本原則と同時刻の概念		
2	7月26日(水) 10:00-12:00	
距離の概念の重要性とミンコフスキー時空		
3	8月1日(火) 10:00-12:00	
時間の遅れとローレンツ変換1		
4	8月2日(水) 10:00-12:00	
時間の遅れとローレンツ変換2		
第2部：ブラックホール		担当者：高橋真聡(愛知教育大学)
宇宙には様々な天体や、それらが織りなす大局的な構造が存在しています。宇宙を調べるという事は、それらの天体の形成過程や構造形成が如何なるものか、知る事もできません。人類は様々な観測装置と観測手法を駆使して、宇宙のしくみを明らかにしてきました。		
第一回目には「宇宙の距離はしご」をキーワードとして、人類が宇宙をどのように理解してきたかを解説します。		
また、近年重力波が検出され、ブラックホールの存在が確からしいものになりました。第二回目には、重力波について、ブラックホールの形成やその特徴について紹介します。さらに、最新のブラックホール探査(観測)の現状について紹介します。		
5	8月23日(水) 10:00-12:00	
宇宙の距離はしご		
6	8月24日(木) 10:00-12:00	
元素合成と星の進化、ブラックホール		
第3部：宇宙論と量子論		担当者：南部保真(名古屋大学)
現在の宇宙論によれば、我々の宇宙はある法則に従って膨張しており、その膨張率を表しているのがアインシュタイン方程式であると考えられています。本講義では、様々な宇宙の観測事実がこの方程式がどのように説明するのかを解説し、さらに量子力学を組み合わせることで宇宙そのものの始まりがどのように理解されているのかを紹介いたします。		
7	10月7日(土) 10:00-12:00	
重力の物理学と宇宙論(一般相対論を用いた宇宙の進化)		
8	10月14日(土) 10:00-12:00	
宇宙の始まりの解明に向けて(量子力学と初期宇宙)		
第4部：観測的宇宙論		担当者：福井康雄(名古屋大学)
現代の天文学は、宇宙と生命の起源を探ることを目指しています。南米チリの高地に設置した電波望遠鏡「南アフリカ」は、電波によって星が生まれるプロセスを観測し、「星と銀河の起源」を解き明かそうとしています。最新の観測で分かっていた宇宙の素顔を紹介します。		
また、宇宙に関して日頃疑問に思っていることを質問してください。疑問に答えながら講義を進めます。		
9	1月13日(土) 10:00-12:00	
観測的宇宙論1		
10	2月10日(土) 10:00-12:00	
観測的宇宙論2		

地球市民学探究講座 SSH 名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

グローバル化の中の様々な問題―偏見・差別、環境、病気、海外労働など―を取り上げながら異文化理解の方法や地球市民としてのあり方について考えます。
●一定回数受講した受講生には、「修了証」を授与します。

定員：30名	申し込み締め切り：6月28日(水)
担当：環境学研究科、名古屋経済大学、教育発達科学研究科、国際教育交流センター、名古屋外国語大学、愛知大学、国際開発研究科、pHD登竜門推進室	

7月1日(土) 10:00-12:00		担当者:小松 尚(名古屋大学)
人口減少時代をどう生きていく？		
1	ご存じの通り、日本の人口は現在減少傾向にあり、このままだと2050年代前半には日本の人口は1億人を切ると予測されています。そこで、人口減少社会の課題や対策について、一緒に、そして前向きに考えてみます。	
7月2日(日) 10:00-12:00		担当者:中村真咲(名古屋経済大学)
「草原の国」モンゴルの歴史と現在		
2	「草原の国」と呼ばれるモンゴルは、激動の20世紀のアジアにおいて、中国とロシアという大国に挟まれながらも100年にわたって独立を維持してきました。伝統的な遊牧を残しながらも、国際政治の最前線で大国と渡り合いながら独立を守ってきたモンゴルの歴史と現在について一緒に考えていきます。	
7月8日(土) 10:00-12:00		担当者:高井次郎(名古屋大学)
人種偏見・差別の心理学		
3	人種偏見を持ったり人種差別をしたりすることは、良くないの言うまでもありません。でも、なぜ我々は差別をしてしまうのでしょうか。気づかずに、無意識的に差別をしてしまうこともよくあります。人種偏見を心理学的に解明しましょう。	
7月9日(日) 10:00-12:00		担当者:星野晶成(名古屋大学)
海外留学のススメ		
4	近年は、学生の間に海外留学を経験することがあまり珍しいことではなくなりました。海外留学するメリット・デメリットは何か？海外留学するとなぜ良いのか？現在の日本の海外留学の動向を踏まえて、皆さんの今後の進路や将来設計の中に、海外留学をどう組み込ませていくかを一緒に考えていきます。社会に出る前に、海外経験を持たない恥をかく時代がすぐそこに来ているのかもしれない。	
7月15日(土) 10:00-12:00		担当者:佐藤良子(名古屋大学)
国民的ステレオタイプ		
5	ステレオタイプとは何か？なぜ人々は他の国民の人たちに対してステレオタイプを持つのか？こうしたステレオタイプには信憑性はあるか？このような質問に答えています。	
7月16日(日) 10:00-12:00		担当者:福田真人(名古屋外国語大学)
疾病の恐怖：なお今日も続く人間と感染症の戦い		
6	人類はどの時代にも、なんらかの疾病に直面して来ました。天然痘は、かつて日本で痘瘡(ほうそう)と呼ばれ、死病でした。コレラは、19世紀のヨーロッパを襲い多数の死者を出しました。そして、今、AIDSやSARS、エボラ出血熱が、鳥インフルエンザ同様に怖いです。人々はこれらの恐怖とどのように戦ったのでしょうか？	
7月23日(日) 10:00-12:00		担当者:砂山幸雄(愛知大学)
変わる中国、変わらない中国〜巨大な隣国の現在を知る		
7	中国は古来、日本人にはおなじみの国です。現在では中国との人的往来はとても濃密です。しかし、日本人にとって中国は、いまだに理解するのが難しい、付き合いにくい国のようなのです。その原因を考えることを通じて、現在の中国への理解を深めます。	
7月24日(月) 13:30-15:30		担当者:岩城宗巳(名古屋大学)
日本人の英語教育における学習不安		
8	日本人は外国語、特に英語を学ぶにあたって、いろいろな不安を感じます。自分の発音がおかしいのではないかと、間違いをすることによって周りの人に笑われるのではないかと、語学教室の中で多くの不安に直面します。こうした英語学習の不安について、皆さんと一緒に検討します。	
7月28日(金) 10:00-12:00		担当者:杉山範子(名古屋大学)
気候変動の時代に生きる		
9	地球温暖化が進行し、私たちは温暖化の原因である二酸化炭素の排出を減らす取り組みだけでなく、気候変動への「適応」が求められるようになっていきます。海外や日本の取り組みを参考に、どのような社会を目指すのか考えます。	
7月29日(土) 10:00-12:00		担当者:足立 守(名古屋大学)
東洋の宝石と西洋の宝石		
10	いわゆる誕生石には、東洋の宝石と呼ばれるヒスイは含まれていません。一方、仏教の経典に登場する宝石にはダイヤモンドやエメラルドはありません。宝石を通して、東洋と西洋の違い、さらには地球環境の違いを考えてみます。	

インフラ工学探究講座

道路・鉄道・上下水道・電力施設・通信施設・堤防・港湾施設・防災施設などのインフラの役割を、近年頻発する地震などに対する防災・減災対策と、社会問題となりつつある老朽化の観点から学びます。安心・安全な生活とインフラ工学の関係を考えてください。

定員：25名	申し込み締め切り：7月31日(月)
担当：工学研究科	

8月17日(木) 10:00-12:00		担当者:中村 光
橋の老朽化と対策		
1	インフラの代表的な構造物である橋を取り上げ、橋が劣化する原因、橋の状態の診断技術、橋を直すための修復技術を紹介します。また、名古屋大学の中に世界で初めて作られた点検研鑽用の橋を使って、橋の診断をする臨床実習を行います。	
8月17日(木) 13:00-14:15		担当者:水谷法美
津波のメカニズムと予測		
2	津波とはどのようなものか？津波の高さはどのように決まるのか？津波の高さをどのように予測するのか？津波に関する基礎知識と最新の技術について紹介します。	
8月17日(木) 14:30-15:45		担当者:野田利弘
液状化の発生と対策		
3	どのような場所で液状化が発生しやすいかという発生原因や、液状化が及ぼす影響を、簡単な実験と最新のコンピュータシミュレーション技術を用いて紹介します。	

電子工学探究講座

大震災の時に被災者の頼りになったものにラジオがあります。スマホもPCも使えないときも、ラジオは使えます。ラジオから今何が起きているのかわかることができ、生きていくための大切な情報を得ることもできます。非常用グッズとして必需品のラジオは、電子工学への入り口でもあります。ラジオを試作して、聴いて、電子工学への第一歩を体験してください。

定員：20名	申し込み締め切り：9月1日(金)
担当：工学研究科	

9月30日(土) 10:00-12:00		担当者:古橋 武
ラジオから電子工学へ		
1	トランジスタラジオの製作を体験します。はんだ付けをしなくても作れるように、工夫してあります。各自が製作したラジオはお土産に差し上げます。今、高校で学んでいる数学・物理とラジオの関係のさわりを解説します。高校数学・物理が(一層)楽しくなるかもしれません。	

チーム医療(多職種連携医療)探究講座

我が国は超高齢社会を迎え、地域医療現場にも時代にあった新たなシステムや考え方が求められています。その一つが「チーム医療(多職種連携医療)」です。医療機関だけでなく地域社会で、在宅医療、訪問看護、服薬指導、リハビリ、介護、福祉から社会活動までをつなげること、すなわち、多職種協働によるチーム医療の提供により、1人1人の住民が、地域社会で幸せに暮らせる事を目指しています。

定員：15名	申し込み締め切り：8月4日(金)
会場：名古屋大学医学部(鶴舞キャンパス)	
担当：医学系研究科地域医療教育学学附講座	

8月28日(月) 13:00-16:00		担当者:岡崎研太郎、高橋徳幸、末松三奈
チーム医療(多職種連携医療)について学ぶ		
1	なぜ、チーム医療が求められているのかをご存知ですか？医療機関では医療安全の観点、患者ケアの質の向上、医療の効率化をはかるため、多職種協働による医療、すなわちチーム医療が求められています。また、少子化および超高齢社会を乗り越える社会モデルとして、厚生労働省は地域社会における多職種連携を推奨しています。本講座では、病院設備見学などの機会を通して、多職種が協働して行うチーム医療について考えたいと思います。	

人文学探究講座

文学部では人文学を学びます。人間のさまざまな営みを通して人間について考える学問が人文学です。過去の、そして現在の人間がどういう存在であるかを知ることとは、未来に向けてもとても大切なことです。講師の案内で、人文学の広い世界をのぞいてみてください。

●二日間の出席を前提としていますが、一日のみの受講も受け付けます。すべての授業を受講した受講生には「修了証」を授与します。

定員：50名	申し込み締め切り：8月23日（水）
担当：文学部	

	8月30日（水） 10:30-12:00	担当者：伊藤大輔
	「鳥獣戯画」を読む	
1	国宝「鳥獣人物戯画」は、動物や人間が遊び戯れる様を墨の線だけで生き生きと描き出し、今ではキャラクター商品にもなる程親しまれています。ですが、この絵巻物には詞書（ことばがき）がなく、本当は何を描こうとしたのか現在でも分かっていません。絵巻を見ながら作品制作の意図を考えて行きます。	
	8月30日（水） 13:00-14:30	担当者：大井田晴彦
	王朝物語と絵画	
2	平安・鎌倉時代には数多くの王朝物語が書かれ、流行していました。それらは絵を伴って読まれていたようです。絵画的想像力が物語に与えた影響、物語の絵画化（国宝「源氏物語絵巻」など）といった問題について考えます。	
	8月31日（木） 10:30-12:00	担当者：伊藤信博
	環境と文学	
3	室町文学には擬人化された動植物が描かれ、その成立には、「草木国土悉皆成仏」思想が関係していることが解明されています。その思想を分析し、その思想が我々にとどのような問いかけを発しているかを、自然環境中心に考えます。	
	8月31日（木） 13:00-14:30	担当者：斎藤夏来
	家康の神格化と画像	
4	徳川家康は「東照大権現」という神様であることを知っていますか？ 私たちがよく見る家康の肖像画は、実はご神体なのです。このご神体は、自分がどのような神様なのか、一生懸命に語っています。一緒に耳を傾けてみましょう。	

視覚文化探究講座

現代は、視覚情報の時代です。写真、映像、アニメ、ゲーム、TV、インターネット、SNSと、とんでもない量の情報が、ひっきりなしに目に飛び込んできます。私たちは、それらを日々受信し、理解し、そして発信しながら生活しています。この講座では、視覚情報について知り、そこでどのような思考ができ、また役に立つのか、講義とワークショップを通して体験し、考えていく機会を提供します。

定員：25名	申し込み締め切り：8月10日（木）
会場：名古屋大学情報学部 SIS スタジオ	
担当：金城学院大学、名古屋芸術大学、情報科学芸術大学院大学	

	8月21日（月） 10:00-12:00	担当者：遠藤潤一（金城学院大学）
1	伝わるデザイン・ポスターのつくり方	
	ポスターやチラシなどのデザインをどうしたら見やすくできるでしょうか。ポスター作りに役立つデザインのポイントを解説します。	
	8月21日（月） 13:00-15:30	担当者：茂登山清文（名古屋芸術大学）
2	ポートレート写真を見る／撮る	
	現代文化の最前線、写真表現では何が起きているでしょう。それを紹介しながら、ポートレート写真にチャレンジし、楽しみましょう。	
	8月22日（火） 10:00-12:00	担当者：鈴木宣也（情報科学芸術大学院大学）
3	絵で考えよう	
	普段考える時、言葉による場合が多いと思いますが、絵で考えることもできます。絵を使って考える方法を体験してみましょう。	
	8月22日（火） 13:00-15:30	担当者：水内智英（名古屋芸術大学）
4	気づきを得る手法としての観察と描写	
	デザインにおいて基本となるスキルである観察と視覚化、そしてそこからの気づきについて考えます。	

人間発達科学探究講座

教育と人間発達について探究する5つのコース、『第1コース〔生涯教育開発〕：私たちはなぜ学ぶのか？（社会のなかの学校）』『第2コース〔学校教育情報〕：家庭と学校の協力による未来の学びの創造』『第3コース〔国際社会文化〕：異文化との出会いと自己発見のドラマ』『第4コース〔心理社会行動〕：世界の見え方・聞こえ方』『第5コース〔発達教育臨床〕：ストレスに対処する』を開講します。

●各コース別に募集します。受講希望が多数の場合は、抽選となります。複数のコース選択可。全コースを修了した受講生には「修了証」を授与します。

定員：各コース50名	申し込み締め切り：各コースの実施2日前
担当：教育発達科学研究科	

	第1コース〔生涯教育開発〕	担当者：吉川卓治、石井拓児
	7月31日（月） 10:30-16:15（休憩12:00-13:00）	
	私たちはなぜ学ぶのか？（社会のなかの学校）	
1	学習活動は、「人々を、なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体にかえる」（ユネスコ学習権宣言）ものだとされています。日本社会で形成されてきた「学歴社会」とはどういうものだったのかを歴史的に振り返るとともに、過労死問題を手がかりにしながら、社会をつくる主体（＝主権者）になるための本当の学びとはどういうものかを、皆さんと一緒に考えます。	
	第2コース〔学校教育情報〕	担当者：サルカール アラム モハメッド レザ
	8月16日（水） 10:30-16:15（休憩12:00-13:00）	
	家庭と学校の協力による未来の学びの創造	
2	「学ぶ」と「教える」とこととの関係について、家庭教育、学校教育などの多角的な視点から考えます。特に、家庭と学校の協力を通して、「未来の学び」をどのように創造することができるのか、一緒に検討しましょう。	
	第3コース〔国際社会文化〕	担当者：西野節男、服部美奈
	7月15日（土） 10:30-16:15（休憩12:00-13:00）	
	異文化との出会いと自己発見のドラマ	
3	現代社会は、グローバル化が多くの問題をもたらしながら加速的に進展していく社会です。このコースでは、言語・文化・宗教的に多様性をもった国や地域の「学校」に注目して、異文化を体験し、次にその体験から自文化を再発見し、自己を表現しながら、相互理解の重要性について考えていきます。	
	第4コース〔心理社会行動〕	担当者：清河幸子
	8月7日（月） 10:30-16:15（休憩12:00-13:00）	
	世界の見え方・聞こえ方	
4	私たちは、外界から多種多様な情報を取り入れながら生活をしています。目や耳から入ってきた情報はどのように処理されているのでしょうか？本コースでは、モノを見たり、聞いたりする際に私たちが行っている情報処理のクセについて、簡単な心理実験を通じて体験的に学びます。	
	第5コース〔発達教育臨床〕	担当者：五十嵐哲也
	7月21日（金） 10:30-16:15（休憩12:00-13:00）	
	ストレスに対処する	
5	現代社会は、ストレスに溢れていると言われています。しかし、同じ出来事に直面しても、ストレスを感じる人とそうでない人がいます。このような違いはどうして生まれてくるのでしょうか。そして、ストレスを感じた時にはどうすればよいのでしょうか。自分の生活を振り返り、明日からの生活に活かせる知識を学びましょう。	

<SSH講座・開講前アンケート（附属生用）>

「学びの杜・学術コース」地球市民学探究講座・開講前アンケート

学年	組	出席番号	性別（*）	出身中学（*）	氏 名

* 性別は、男子＝1、女子＝2 を記入して下さい。出身中学は、附属中以外の中学校出身者＝1、附属中学校出身者＝2 を記入して下さい。

このアンケートは、開講にあたり、参加者の皆さんにお聞きするものです。結果は、講座を改善する際に参考にし、他の目的には使用いたしません。

問1	【受講動機について】 ●あなたが、この講座を受講しようと思った動機は何ですか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号をすべて○で囲んでください。				
	1. 講座の内容に興味・関心があるから		6. AO 入試、推薦入試に役立つから		
	2. 大学の先生の話聞いてみたいから		7. 将来の進路選択の参考になるから		
	3. 人に勧められたから		8. 大学での専門的な学びを体験したいから		
	4. 友達に参加するから		9. その他（ ）		
	5. 学校で単位が認められるから				
問2	【進路について】 ●あなたは、自分の将来について考えますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。				
	1. よく考える	2. 時々考える	3. どちらともいえない	4. あまり考えない	5. 全く考えない
問3	●現在、自分の将来についてどのようなことを考えていますか。学びたいこと、就きたい職業について自由に書いてください。				
	【学びたいこと】		【就きたい職業】		
問4	●高校卒業後はどのような進路を希望していますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。				
	1. 名古屋大学		4. 専門学校		
	2. 名古屋大学以外の 4 年制大学		5. わからない		
	3. 短期大学		6. その他（ ）		
問5	●あなたは、自分の将来のために、何か具体的な体験や学習に取り組んでいますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。また、取り組んでいることがあれば書いてください。				
	1. よく取り組んでいる	2. 時々取り組んでいる	3. どちらともいえない	4. あまり取り組んでいない	5. 全く取り組んでいない
	【取り組んでいること】				

* 裏面に続きます

【物事に取り組む意欲について】				
●次のようなことについて、あなた自身にはどの程度あてはまりますか。それぞれの項目で、 <u>あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。</u>				
項目	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	ぜんぜんあてはまらない
①入学時よりも、将来の職業や進路など自分のことは自分で決めようと意識するようになった。	1.....2.....3.....4			
②入学時よりも、自分で考えたり行動したりするようになった。	1.....2.....3.....4			
③入学時よりも、学習に対して意欲的に取り組めるようになった。	1.....2.....3.....4			
④ 入学時よりも、自分の意見を発言できるようになった。	1.....2.....3.....4			
⑤入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった。	1.....2.....3.....4			
⑥入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった。	1.....2.....3.....4			

【地球市民学探究講座と学校の教科・科目】						
●あなたの好きな、嫌いな、また得意な、不得意な教科や科目を教えてください。 <u>下の欄から選び、その番号を上位3位まで書いてください。</u> あてはまるものがなければ「なし」と記入して下さい。						
好きな教科・科目:1位【 】2位【 】3位【 】	得意な教科・科目:1位【 】2位【 】3位【 】					
嫌いな教科・科目:1位【 】2位【 】3位【 】	不得意な教科・科目:1位【 】2位【 】3位【 】					
①国語、②日本史、③世界史、④地理、⑤公民、⑥数学、⑦生物、⑧物理、⑨化学 ⑩保健体育、⑪芸術、⑫英語、⑬家庭、⑭総合学習(総人)、⑮情報、⑯SS 課題研究Ⅱ(S1、S2のSTEAM)						
●あなたは、地球市民学探究講座を受講することについて、現在、どのような気持ちですか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。						
問8	<table border="1"> <tr> <td>1. とても期待している</td> <td>2. やや期待している</td> <td>3. どちらともいえない</td> <td>4. あまり期待していない</td> <td>5. 全く期待していない</td> </tr> </table>	1. とても期待している	2. やや期待している	3. どちらともいえない	4. あまり期待していない	5. 全く期待していない
1. とても期待している	2. やや期待している	3. どちらともいえない	4. あまり期待していない	5. 全く期待していない		
問9	<p>●問8で1～2を選んだ人のみ答えて下さい。あなたは、地球市民学探究講座を受講するにあたり、具体的にどのようなことを期待していますか。自由に書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>					

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

<SSH講座・ワークシート>

日付 月 日
講師 先生



2017 年度 学びの杜・学術コース

生命科学探究講座「ワークシート」5

学年	組	出席番号	性別（＊）	出身中学（＊）	氏 名

＊ 性別は、男子＝1、女子＝2 を記入して下さい。出身中学は、附属中以外の中学校出身者＝1、附属中学校出身者＝2 を記入して下さい。

受講前

受講前にリーフレットに掲載されている講義の内容を読み、興味を持ったことやキーワードを取り上げ、その内容を調べて下さい。調べる方法は、本でもインターネットでも、何でも構いません。

講座名	5. 二枚貝から「中生代の海洋変革」を学ぶ
興味を持ったこと・ キーワードなど	

<調べたことを書いて下さい>

受講後

問 1	●あなたは今日の講義に意欲的に取り組むことが出来ましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。また、取り組めたあるいは取り組めなかった理由も書いてください。				
	1. よく取り組めた	2. 大体取り組めた	3. どちらとも いえない	4. あまり取り組め なかった	5. 全く取り組め なかった
	【理由】				

問 2	●あなたは今日の講義の内容に興味を持ちましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。				
	1. 大変興味を 持てた	2. やや興味を 持てた	3. どちらとも いえない	4. あまり興味を 持てなかった	5. 全く興味を 持てなかった

※このページは講師の先生も目を通します。

問 3	●あなたは今日の講義の内容を理解できましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。				
	1. 十分に理解できた	2. 大体理解できた	3. どちらともいえない	4. あまり理解できなかった	5. 全く理解できなかった
問 4	●今日の講義は、受講前に期待していた通りの内容でしたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。また、その理由も具体的に書いてください。				
	1. とても期待通りであった	2. 大体期待通りであった	3. どちらともいえない	4. あまり期待通りでなかった	5. 全く期待通りでなかった
	【理由】				

問 5. 今日の講義を聞いて考えたこと、面白かったこと、印象に残ったこと、疑問に思ったこと、わからなかったことなどを、自由に書いてください。

問 6. 講師に対するメッセージ、感想等がありましたら、自由に書いて下さい。

＜事後アンケート（附属生および修了証授与対象者用）＞

「学びの杜・学術コース」物理学探究講座・事後アンケート

学年	組（＊）	出席番号	性別（＊）	出身中学（＊）	氏 名

＊ 組はA組＝1、B組＝2、C組＝3に置き換えて記入して下さい。性別は、男子＝1、女子＝2 を記入して下さい。
出身中学は、附属中以外の中学校出身者＝1、附属中学校出身者＝2 を記入して下さい。

＊ 一定回数講義に出席している生徒には今年度から「修了証と受講証明書」を発行します。
「受講証明書」には「生年月日」を記載しますので、下記に記入して下さい。

西暦	年（平成	年）	月	日
----	------	----	---	---

このアンケートは、講座終了にあたり、参加者の皆さんにお聞きするものです。結果は、講座を改善する際に参考にし、他の目的には使用いたしません。

問 1	【受講のきっかけや申込について】 ●あなたが、「学びの杜・学術コース」を知ったきっかけを教えてください。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を全て○で囲んで下さい。（複数選択可）				
	1. リーフレットを見て知った		4. 先生の勧めで知った		
	2. ポスターを見て知った		5. 知人・友人の勧めで知った		
	3. WEB ページを見て知った		6. その他（ ）		
問 2	●講座の内容を確認したり、申し込みをしたりする際に、リーフレットやポスターにあるQRコードを使用しましたか。				
	1. 使用した		2. 使用していない		
問 3	【受講を終えて】 ●物理学探究講座は、受講前に期待していた通りの内容でしたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。また、その理由も書いてください。				
	1. とても期待通りであった	2. 大体期待通りであった	3. どちらともいえない	4. あまり期待通りでなかった	5. 全く期待通りでなかった
	【理由】				
問 4	●物理学探究講座では、意欲的に取り組むことが出来ましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。また取り組めた、あるいは取り組めなかった理由も書いてください。				
	1. よく取り組めた	2. 大体取り組めた	3. どちらともいえない	4. あまり取り組めなかった	5. 全く取り組めなかった
	【理由】				

問 5	●物理学探究講座を受講し、感じたことに当てはまる番号をそれぞれの項目で 1 つだけ○で囲んでください。				
	項目	とても そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
	①こういう学問領域があることを初めて知った	1	2	3	4
	②1 つの研究には幅広い知識が必要だと思った	1	2	3	4
	③研究の方法を知ることができた	1	2	3	4
	④課題研究を行う際の参考になった	1	2	3	4
問 6	●物理学探究講座を受講したことで、この学問への興味や理解は深まりましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。				
	1. 非常に深まった	2. やや深まった	3. どちらとも いえない	4. あまり深まらな かった	5. 全く深まらな かった
問 7	●物理学探究講座で学んだことは、日常生活でどの程度、役に立つと考えますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。				
	1. 非常に役に立つ	2. ある程度役に 立つ	3. どちらとも いえない	4. あまり役に 立たない	5. 全く役に立た ない
問 8	●問 7 で 1～2 を選んだ人のみ答えて下さい。具体的には日常生活でどのように役に立つと考えますか。自由に書いてください。				
問 9	【進路について】 ●あなたは、自分の将来について考えますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。				
	1. よく考える	2. 時々考える	3. どちらとも いえない	4. あまり考え ない	5. 全く考えない
問 10	●将来について、どのようなことを考えていますか。学びたいこと、就きたい職業について自由に書いてください。				
		【学びたいこと】		【就きたい職業】	
問 11	●高校卒業後どのような進路を志望しますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を 1 つだけ○で囲んでください。				
	1. 名古屋大学		4. 専門学校		
	2. 名古屋大学以外の 4 年制大学		5. わからない		
	3. 短期大学		6. その他 ()		
問 12	●自分の将来のために、新たに取り組もうと思ったことはありますか。あれば、具体的に書いてください。				

裏面に続きます

問 13	【物事に取り組む意欲について】 ●受講前と比べて、あなた自身はどれにあてはまりますか。それぞれの項目であてはまる番号に1 つだけ○で囲んでください。				
	項目	とても あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	ぜんぜん あてはまらない
	①受講前よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めよう意識するようになった	1.....2.....3.....4			
	②受講前よりも、自分で考えたり、行動したりするようになった	1.....2.....3.....4			
	③受講前よりも、学習に対して意欲的に取り組めるようになった	1.....2.....3.....4			
	④受講前よりも、自分の意見を発言できるようになった	1.....2.....3.....4			
	⑤受講前よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった	1.....2.....3.....4			
	⑥受講前よりも、職業や進路に関心を持つようになった	1.....2.....3.....4			
問 14	●最後に、受講して考えたこと、面白かったこと、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどを自由に書いてください。				

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

<事後アンケート（SSH講座以外）>

「学びの杜・学術コース」電子工学探究講座・事後アンケート

学 校 名	学 年	氏 名

このアンケートは、講座終了にあたり、参加者の皆さんにお聞きするものです。結果は、講座を改善する際に参考にし、他の目的には使用いたしません。

問 1	【受講のきっかけや申込について】 ●あなたが、「学びの杜・学術コース」を知ったきっかけを教えてください。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を全て○で囲んで下さい。(複数選択可)				
	1. リーフレットを見て知った		4. 先生の勧めで知った		
	2. ポスターを見て知った		5. 知人・友人の勧めで知った		
	3. WEB ページを見て知った		6. その他()		
問 2	●講座の内容を確認したり、申し込みをししたりする際に、リーフレットやポスターにあるQRコードを使用しましたか。				
	1. 使用した		2. 使用していない		
問 3	【受講を終えて】 ●電子工学探究講座は、受講前に期待していた通りの内容でしたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。またその理由も書いてください。				
	1. とても期待通りであった	2. 大体期待通りであった	3. どちらともいえない	4. あまり期待通りでなかった	5. 全く期待通りでなかった
	【理由】				
問 4	●電子工学探究講座では、意欲的に取り組むことが出来ましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。また取り組みめた、あるいは取り組みなかった理由も書いてください。				
	1. よく取り組みめた	2. 大体取り組みめた	3. どちらともいえない	4. あまり取り組みなかった	5. 全く取り組みなかった
	【理由】				
問 5	●電子工学探究講座を受講し、感じたことに当てはまる番号をそれぞれの項目で1つだけ○で囲んでください。				
	項目	とても そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
	①こういう学問領域があることを初めて知った	1 2 3 4			
	②1つの研究には幅広い知識が必要だと思った	1 2 3 4			
	③研究の方法を知ることができた	1 2 3 4			
	④課題研究を行う際の参考になった	1 2 3 4			

問 6	<p>●電子工学探究講座を受講したことで、この学問への興味や理解は深まりましたか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。</p>				
	1. 非常に深まった	2. やや深まった	3. どちらとも いえない	4. あまり深まらなかった	5. 全く深まらなかった
問 7	<p>●電子工学探究講座で学んだことは、日常生活でどの程度、役に立つと考えますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。</p>				
	1. 非常に役に立つ	2. ある程度役に立つ	3. どちらとも いえない	4. あまり役に立たない	5. 全く役に立たない
問 8	<p>●問 7 で 1～2 を選んだ人のみ答えて下さい。具体的には日常生活でどのように役に立つと考えますか。自由に書いてください。</p>				
問 9	<p>【進路について】 ●あなたは、自分の将来について考えますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。</p>				
	1. よく考える	2. 時々考える	3. どちらとも いえない	4. あまり考えない	5. 全く考えない
問 10	<p>●将来について、どのようなことを考えていますか。学びたいこと、就きたい職業について自由に書いてください。</p>				
	【学びたいこと】		【就きたい職業】		
問 11	<p>●高校卒業後どのような進路を志望しますか。以下の選択肢から当てはまる項目の番号を1つだけ○で囲んでください。</p>				
	1. 名古屋大学		4. 専門学校		
	2. 名古屋大学以外の4年制大学		5. わからない		
	3. 短期大学		6. その他（ ）		
問 12	<p>●自分の将来のために、新たに取り組もうと思ったことはありますか。あれば、具体的に書いてください。</p>				
問 13	<p>●最後に、受講して考えたこと、面白かったこと、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどを自由に書いてください。</p>				

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。